

## トスカーナ発ドイツ便り：ないものねだり

「無い物強請り（ないものねだり）」という日本語があります。大辞林によれば「無いものをむりに欲しがること」という意味です。誰でも知っていますよね？ドイツ語だったら *Unmögliches verlangen* みたいな表現になるようです。「不可能なものを欲しがる」という意味合いです。

でも「これが『ないものねだり』ってやつか」を生活の中で実感したことって、どのくらいありますか？

ドイツ生活時代に学校で同じクラスだったデンマーク人の友達は、私たちが刷り込まれてきた「基準」そのまものの美女です。太陽が当たるとキラキラ光るようなブロンドのサラサラの髪、透明感のある陶器のような白い肌、お星さまが飛ぶような鮮やかなブルーの大きな目に長い睫、笑顔の良く似合う口元に赤い唇、長い手足。まるでバービー人形みたいな彼女です。

そんな彼女とある日一緒に学校の宿題をしながらお茶していたら、私の顔をしばしうっとり眺めながら、彼女はこう言いました。「ああ、私も Eriko みたいな目だったらよかったのに…。」思わず耳を疑って、冗談か？と思って聞いてみましたが、まったく冗談でも何でもなく真剣に。

なんでも、ヨーロッパでは、東洋人のちょっと目じりのつり上ったアーモンド形の目って（そのまま *Almond eyes* って言います。ドイツ語だと *Mandelaugen* : マンデル・アウゲン）、一番美しい目の形とされていて、西洋人から見ると神秘的で、憧れる人が多いのだとか…（女性向け雑誌を見ていると、*Mandelaugen* に見せるメイクアップ方法の特集とか見かけます。）。彼女も *Mandelaugen* に魅せられてしまった一人でした。

ああこれこそまさに「ないものねだり」ですよ。

（私は私で彼女の顔を毎日「ホンマに綺麗やわー」って眺めていたわけですが…）

そういわれてみて、あらためて周りを見渡すと、日本では珍しくもなんともない目の形ではありますが、確かにドイツだと、いないんです！これは新たな発見でした。

*Almond eyes* という言葉にはネガティブな意味合いはないと思います。

あと、西洋人が東洋人を示すジェスチャーで、指で目じりを釣り上げる、というのがあります。差別的意味合いで使う人ももちろんいると思いますし、「バカにされている」と考える人も多いのも確かですが、（私も始めはそうなのかと思っていました。）色々な国の人に「どういう意味でそのジェスチャーを使っているの？」と興味津津聞いてみると、東洋人＝憧れのエキゾチックな *Almond eyes* みたいな感じで、好意的な意味合いもある、とのことで、まあ使われる状況にもよりけりですが、必ずしも差別的と言うわけではなさそうです。

その他、私はオリジナルの黒髪のままずっと過ごしているのですが、（単に、皆がみんな茶色に染めているので、かえって黒の方が目立つやろ？くらいの理由だったのですが…）海外ではこれがウケるんです。

ある日、美容院の前を通り過ぎたら、ちょうどお客さんがいなくて、暇そうに外を眺めている美容師さんと目が合いました。ふわふわのブロンドの綺麗な人でした。

そんな彼女が急いで店から飛び出してきて、いきなり「どうやったらそんな綺麗な黒髪に染められるの！」と聞いてきました（ちょうど「黒髪ブーム」の頃でした）。「染めてなくて、これオリジナルですねん」と勢いに驚きながら回答すると、これまたうっとり「なんて素敵！信じられない！ちょっと触ってもいい??」なんて言われながら、興奮気味のお姉さんに散々頭なでなでされました。ちょっと買い物に行った先でも髪の色も褒められます。これまた「ないものねだり」。

スペインとかイタリアとかフランスとか、黒髪自体はヨーロッパでもまったく珍しくないのですが、日本

人の黒髪とは、色だか艶だか、何か違うらしいです。面白いですよ。

結局のところ、日本人は自分の髪にも顔にも外見にも、コンプレックスなんか感じる必要はどこにもなくて、要はオリジナルな自分にもっと自信を持ったほうが良いのだと思います。☺

今回は、「ないものねだり」がお題なので、例として身体に関することを書きましたが、実は、ドイツでは、「髪型が素敵」とか「その服似合ってる」的な当たり障りのないことは誰に言ってもOKです。  
(意外にも、ドイツでは、お店の中とか電車やバスの中とか、カフェのテーブル隣の人とか、全然知らない人から話しかけられることも多いです。人の会話に全然関係ない人が意見することも珍しくありません。  
「知らない人に急に話しかけたら失礼じゃないか？」的な気遣いはしない、というかもっと素朴に、本能のままに、「言いたいことは言う」というか「疑問に思ったら聞いてみる」というか、ちょっと言葉では説明しにくい不思議な感じではあるのですが、慣れると快適ですよ。)

その反面、人種や肌・目の色など、外見とか身体的な特徴に関することや、相手の宗教に関する事は、私たちが思っている以上に気軽に話すことではないので、親しい相手でない限りは、控えた方が良いでしょう。状況や相手との関係によっては、下手すると「差別」と捉えられる可能性もあるので要注意です。まあ、どこからが？という線引きも難しいので、親しくなるまではそういう話は避けた方が無難でしょうね。

あと、特に私たちが注意すべきなのは…。

日本人はいとも気軽に、そして当然のように初対面の人に「血液型は何型？」なんて質問をしますが、これって、ドイツでは普通、本人と家族と（かかりつけの）医療関係者くらいしか知らないような「超個人情報」なので、聞かれた人が「何のためにそんなことを聞くの？」とおびえるほどの、ありえない質問なんです。確かドイツでも血液型の分布は日本と同じく、多い順にA→O→B→AB だったと思います。でもそもそも、自分の血液型を「知らない」人も多いし、もちろん血液型で性格判断なんて考え方もないです。日本人に慣れたドイツ人なら「あまたこの質問！どんだけ日本人血液型すきやねん？」位に受け流してくれると思いますが、気を付けた方がよいです。

国が違えば…。ですね。☺

多少脱線しましたが「ないものねだり」でした。